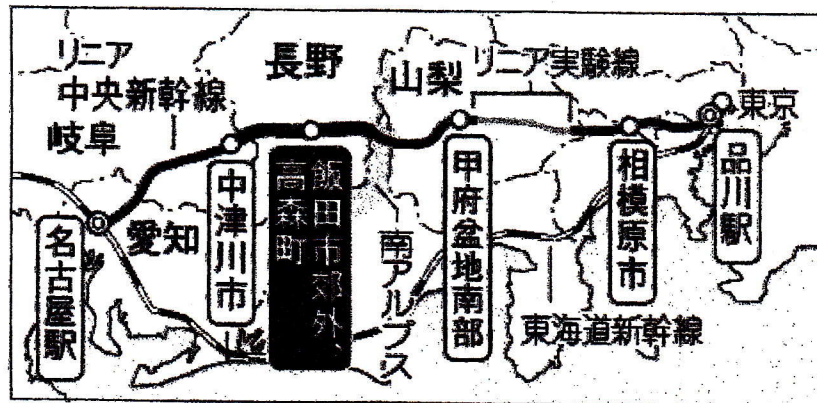


## 南アルプス トンネルの安全性は？

南アルプスを貫く「南アルプス長大山岳トンネル」は全長 22 km にもなる。山梨県、静岡県、長野県にまたがる「赤石山脈」は通称「南アルプス」と呼ばれ、日本列島でも独立した 3000m 峰が一番多い山脈であり、南北 120 km、東西 40 km に及ぶ。トンネルルート上には日本最大の断層線谷である南アルプス中央構造線を始めとして、糸魚川—静岡構造線・笹山構造線・井川—大唐松断層・仏像構造線・戸台構造帯など複雑な地質構造線が並走する地震多発地帯だ。掘削工事の危険性と突発的な出水事故の発生が危ぶまれる。

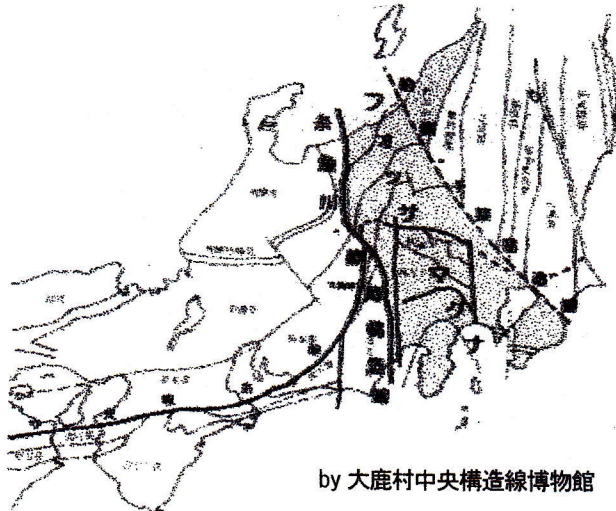
【リニア中央新幹線のルート案】

2011年8月5日

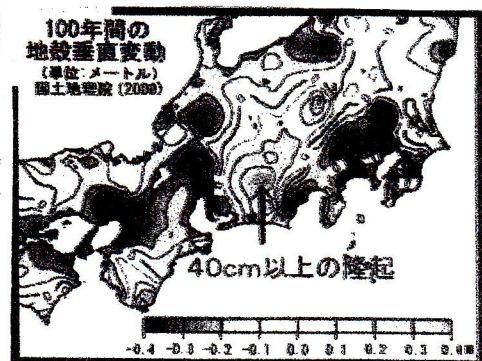


専門家によると全線の掘削にかかる期間と費用は、発表された計画の約2倍と見るべきだと意見が出されている。完成後も東海沖地震などでの落下・崩落事故などの危険性が高い場所である。しかもフィリピン海プレートが潜り込むことで、南アルプス是我が国で一番隆起が激しい山脈と言われている。年間 5 ~6mm も盛り上がっている。もともと 1500 万年前日本列島がアジア大陸から離れた時にこの場所で日本列島がちぎれ、沈降して海になりフォッサマグナとなった。その後一部は次第に隆起し山脈を形成し、現在も隆起が続く場所である。従って、トンネル掘削とその後の安全管理が困難な場所である。

【中央構造線とフォッサマグナ】



by 大鹿村中央構造線博物館



「フォッサマグナ」とは、ラテン語で大きな溝という意味です。フォッサマグナ地域は1500万年前ごろ大きく沈降して海になり、泥・砂・火山灰で埋め立てられました。地層は、沈降した深さだけたまりますが、長野市付近では、その厚さは5000mもあります。1500万年前、日本海が開き、それまでアジア大陸の東縁にあった日本列島の”もと”が大陸から離れました。東北日本は反時計まわり、西南日本は時計まわりに回転し、折れ曲がった部分が引っ張られて落ち込みフォッサマグナになりました。

※構造線や構造帯とは、異なる地質帯が接している断層で、多くの場合断層破砕帯崩壊の原因となる。

※松島信幸氏のご意見を参考にさせていただきました。